

乳幼児対象 県、子ども実態調査

高校生調査

交通費、進路に影響 困窮世帯の4割「重視」

通学費が高校進学に与える影響

通学交通費の負担を、高校進学
の選択材料にしたか？

■非常に重視した ■やや重視した ■あまり気にしなかった
■まったく気にしなかった ■無回答・非該当

世帯	通学交通費の負担を、高校進学 の選択材料にしたか？				
	非常に重視した	やや重視した	あまり気にしなかった	まったく気にしなかった	無回答・非該当
非困窮 2人親世帯	6.0	20.9	34.4	21.0	17.7
非困窮 1人親世帯	8.3	22.7	28.8	23.0	17.3
困窮 2人親世帯	11.2	27.4	28.0	13.2	20.2
困窮 1人親世帯	13.3	24.7	22.9	14.0	25.1

0 20 40 60 80 100%

未就学児調査とともに9日に発表された県高校生調査の詳細分析では、進学する高校の選択に通学費負担を「重視した」とする保護者が、困窮世帯ではひとり親世帯の38・0%、ふたり親世帯の38・6%に上った。同様の回答は、非困窮世帯でもふたり親世帯は26・9%、ひとり親世帯では31・0%おり、高校選択に交通費が影響していることが明らかになった。

高校生調査は17年3月の中間報告で、多くの生徒が「家計の足し」「通学交通費」のためにアルバイトをしていることが明らかになった。部活動をしている生徒は非困窮のふたり親世帯では67・8%いたが、困窮のひとり親世帯では49・6%と低かった。「現在アルバイトをしている」生徒は全体で21・4%いた。そのうち非困窮のふたり親世帯の15・8%が現在アルバイトをしているのに対し、困窮のひとり親世帯では36・2%と、非困窮に比べ2倍以上に上った。

「自分は価値のある人間だ」「将来が楽しみ」といった自己肯定感は経済状況よりも世帯構成で差が開き、ひとり親世帯で低くなっていた。報告書では、ひとり親世帯に対する社会的な偏見が、自己肯定感の低さにつながっている可能性を指摘した。

乳幼児調査とは異なり、困窮ラインは等価可処分所得127万円。